

一般質問

市民の声を市政に

※ 各議員のQRコードをスマートフォン等で読み取ることで、一般質問の録画映像をご覧ください。

※ 荒木洋美議長は職責上（議事整理権）、監査委員の水沼日出夫議員は申し合わせにより一般質問は行っていません。

（文責は、各質問者）

一般質問に25人が登壇

福祉行政について



山崎 進
議員



高齢化社会が進んで、埼玉県の高齢化率は全国でも低い方ですが、2023年は、26・8%です。春日部市の高齢化率は、2023年11月1日現在で、31・4%と県の平均を上回っています。17年後の2040年には、36・7%と予測されます。核家族化の現在、高齢者世帯、単身高齢者世帯も増加しています。さらに、認知症高齢者も年々増加傾向にあります。

そこで、高齢者世帯や単身高齢者に急病などが起きた場合の支援策について伺います。

また、認知症の人が行方不明になることがあります。家族が行動範囲を知るためにも、GPS機能を使って行動確認ができないか伺います。

○福祉部長

急病などは、まずは救急搬送の対応となります。介護については、高齢者やご自身のことについて不安などがある

方は、気軽に地域包括支援センターに相談していただくことで、いざというときの対応ができると考えています。

GPSは、自分自身で意識して所持する必要があり、随時充電が必要であること、また高額のため、利用者に自己負担を求める自治体もあります。本市が実施している「ひとり歩き高齢者等保護対策事業」は、無料で利用できることから、より多くの方に利用いただけるよう、今後も周知に努めていきます。

このほか

消防施設の老朽化対策について



河井 美久
議員



関東大震災から100年を迎え、次なる大規模地震発生の危険性が高まっていることを踏まえ、火災が大変恐ろしいものであると痛感しているところでは、

安心・安全を確保する消防に対する市民の期待は高く、消防体制の強化を進めること

は、ますます重要であると考えています。しかしながら、消防施設、特に消防活動の拠点となる消防庁舎の老朽化が進んだままでは、切迫する大規模地震などに対応できないものと考えています。

そこで、消防力の基礎となる消防庁舎の老朽化対策と、今後の計画、特に未耐震となっている浜川戸分署の計画について伺います。

○消防長

消防庁舎の老朽化対策と今後の計画ですが、将来を見据え、消防サービスを提供するため、安心・安全に暮らせるまちづくりの推進を目的に、令和4年11月に策定した消防施設整備計画に基づき、改修工事などの老朽化対策を進めていきます。

未耐震となっている浜川戸分署については、消防施設整備計画の中で、消防力の適正配置に関する調査の結果において適正位置とされた周辺へ、移転建替えることに合わせ、幸松分署との統合を目指すこととしていきますので、計画に基づき検討を進めていきます。

このほか

○豊春地区の旧古隅田川しゅんせつ工事について

100ミリ安心プランの
概要について



鬼丸 裕史
議員

全国各地で戦後最大規模の洪水により、甚大な被害が発生しています。世界的な気候変動も叫ばれており、さらに大きな水害が、いつ起きてもおかしくない状況となっています。100ミリ安心プランは今年度を含め残り計画期間3年となり、計画の終盤を迎えます。

そこで、以下伺います。

- ①今年度の大雨による安之堀川周辺の被害状況について
- ②以前から懸念となっていた安之堀川へ流れ込んでいた水路への水の逆流を防止するため実施する工事内容について
- ③本市が実施する今後の予定について

○建設部長

①護岸のかさ上げがほぼ完了している安之堀川については、河川からの越水を防いでおり、十分な整備効果があったものと考えています②安之堀川の改修に伴う水路の逆流防止対

策は口径や幅が1メートル以上の水路3か所を対象としています。今年度については、

最下流部の右岸側にある水路と中間部の左岸側にある水路にフラップゲートを設置する工事を実施します③令和6年度と7年度において、残り1か所となる、谷中橋付近の水路の逆流防止装置の設置、谷原地区の約1700立方メートルの雨水貯留施設、大沼地区の雨水管渠施設の完成に向けて取り組んでいきます。

このほか

○春日部市の観光振興について



F595号橋の修繕状況

選ばれるための
子育て支援について



小久保博史
議員

内閣は、「異次元の少子化対策」を掲げ、少子化や人口減少に歯止めをかけるため、さまざまな対策に取り組んで着手しています。

本市もこれまで、「日本一子育てしやすいまち」をスローガンに掲げ、さまざまな子育て支援策に取り組んできましたが、少子化と高齢化の進行を食い止めることはできていない状況です。本市の未来のためには、少子化に歯止めをかけることが必要不可欠です。そのためには、若者・子育て世代に選ばれるまちとなることが重要と考えます。

そこで、若者や子どもたちが、地域への愛着や社会の一員としての主体性を高める取り組みについて、市の考えを伺います。

○こども未来部長

選ばれるまちになるためには、次世代を担う若者への支援や取り組みが必要であると

考えています。

今後は、子どもに焦点を当て、子どもの意見を聞きながら、子どもたちに直接届く事業、子どもの権利擁護を重視する取り組みを多角的に行っていくことが重要と考えます。今後策定する、こども計画

において、子どもや若者の意見を施策に反映させる方法を本市での取り組みに位置付け、選ばれるまちになるための視点を重視しながら、計画に掲げる施策を検討していきます。

このほか

○新型コロナウイルス感染症への対応について

鉄道高架事業について



伊藤 一洋
議員

鉄道高架事業は、本市において長年の悲願であり、課題である事業だと思えます。現在の進捗状況について、

春日部駅東口では、東口仮駅舎の2階から既存の浅草方面までを結ぶ南北連絡通路の工事を進めていることや、富士見町地下道が9月11日に完成

し、以前のものよりも緩い勾配で整備し、使用を開始したことを理解しました。

それでは、春日部市にとって鉄道高架事業は大変重要な事業であり、市民にとって早期完成を望む声が多くありますが、今後の見通しについて伺います。

○鉄道高架担当部長

今後の見通しについては、まずは事業に必要な用地取得を引き続き進めていきます。

次に、工事については、東武伊勢崎線の仮上り線への切替えを進めた後、下り線、野田線の上下線の順に仮ホームと仮線を東口側へ寄せる切替えを行い、西口側に高架橋を建設するスペースを生み出していきます。

続いて、西口側から野田線の上下線、伊勢崎線の下り線上り線の順に高架橋の建設を進めていきます。

引き続き埼玉県、東武鉄道と連携し、令和13年度の完成に向けて事業に取り組んでいくとともに、事業の効果が最大限発揮できるよう、まちづくりも着実に進めていきます。

このほか

○空き家におけるアライグマの問題等について

子育て支援について



藤原 智子
議員

結婚、妊娠、出産から子どもが社会に巣立つまで、ライフステージや子ども年齢などに応じた切れ目ない支援策の充実に取り組み中、妊娠期からの一貫した子育て支援が強化され、本市では10月から宿泊型の産後ケア事業が始まりました。国では実施要綱で「産後ケアを必要とする者」とし、希望者全員が対象となることを明確にしましたが、本市では市が掲げている項目に全て当てはまる方とあります。本市でも希望者全員が利用できるよう進めてほしいと思います。

産後ケアの充実を含めた妊産婦に対する支援の充実についての考えを伺います。
○ことも未来部長

宿泊型産後ケアについては、現在は市内2カ所の医療機関と1カ所の助産所において、空きベッドを活用し実施していることから、ケアを受けら

れる方の人数は限られている状況です。そのため、今後市外を含め、受入れ可能な施設の確保に努めていきます。

また、新たな妊産婦への支援として、食事の準備や洗濯、買物、掃除の代行など、家事支援や育児支援などを行う、子育て世帯訪問支援事業についても検討を進めています。引き続き、妊産婦に対する支援の充実にも努めていきます。

このほか
○子宮頸がん撲滅に向けた取り組みについて
○日本語指導が必要な児童生徒の支援について

福祉と連携した交通施策と今後のまちづくりについて



中村 貴彰
議員

春バスが廃止になる地域に住まわれている、特に高齢者の皆さまにおいては、今後に向けて病院への通院や日常の買い物などの懸念が予想されます。

庄和地域での実証実験の間、逆を言えば地域の意見をしっかりと聞ける、よい機会

と捉え、春日部市全体としても再度声を聞くべき、もっと検証をするべきだと思います。実情に合わせ、内牧地域であれば、北春日部発着のバスや豊春地域においては、タクシークーポンなど、全ての市民に光を当て、誰ひとり取り残さない、今こそ、公共交通と福祉が連携し、市民に寄り添っていくことが本当に大切だと思います。

春バス空白地域の移動手段は大きな問題で、福祉的観点からも、これからの高齢者の移動手段に関しては、喫緊の課題です。この課題について、市長はどのように考えているか伺います。

○市長
高齢者の移動手段の確保については、今後も高齢者人口の大幅な増加が見込まれる中、大変重要な課題であると認識をしています。

高齢者が安心して生き生きと暮らせるよう、他市の状況などを参考にしつつ、議員ご指摘の福祉的観点も考慮し、広い視野に立って、今後検討していきたいと思えます。

このほか
○糖尿病重症化予防策について

公共施設での利便性向上策について（音声認識アプリ・軟骨伝導イヤフォン・生理用品）



栗原 信司
議員

新本庁舎に限らず、全ての公共施設において市民サービスの向上を図るべきとの観点で伺います。

まずは新本庁舎として、どのような取り組みを始めるのか。新本庁舎の窓口における対策について伺います。例えば、UDトークなどの音声認識アプリや、耳を防がずに、耳の軟骨を使う、軟骨伝導イヤフォンを公共施設の窓口に配置している自治体が増えてきました。

生理用品についても一昨年3月4日に公明党の佐々木さやか参議院議員が他党に先駆け、初めて国会で生理用品の負担軽減について訴えたことを受け、直後の3月17日に、公明党市議団として、いち早く当時の執行部に緊急要望書を提出したところです。

そこで、新本庁舎をはじめ、生理用品を置いてほしいところですが、いかがでしょうか。

○総合政策部長

新本庁舎の窓口においては、デジタル技術を活用した書かない窓口とAI翻訳タブレットを新たに導入し、利便性向上に取り組んでいきます。

○財務部長

生理用品については、試行的に新本庁舎のトイレに設置することについて、実施に向けた準備を進めていきます。

このほか
○A Y A世代のがん患者への支援について

○投票率向上策として期日前投票所の拡充を

○高齢者支援について



A I 翻訳タブレット

後継者の育成で、 持続可能な農業を



大野とし子
議員

耕作面積が県内ベスト10に入る春日部市の農業は重要な産業ですが、この5年間で新規就農者は17人で、後継者育成は喫緊の課題です。

秋田県横手市の「よこて農業創生大学校」では、計画的に新規就農者を育成しています。この取り組みの良い点は①県から講師を招聘し座学も含め2年間系統的に農業の知識を学べること②就農後も市や県のサポートがあることだと考えます。

春日部は、新規就農者育成のために「明日の農業担い手育成塾」に取り組んでいます。この事業の充実が求められると考えます。この事業において、農業団体の皆さんの指導を軸に、埼玉県農林振興センターと連携して、農業について系統的に学べる場の充実が重要と考えます。また、国の補助金を活用し、経済的支援もしていくべきと考えますが、

市の認識を伺います。

○環境経済部長

県農林振興センターとしっかり連携し、効果的な研修メニューを協議していきたいと考えています。独自支援については、現在も農業機械の賃借料など、農業実習にかかる費用を負担していますが、一方で、近年、入塾者がいない状況があり、他県のさまざまな事例を研究していきます。

このほか

○庄和保健センター跡地に児童館を
○庄和地域は、長寿を祝う会を正風館で



庄和北部地域の田園風景

補聴器購入助成を 早期に実施し、元気で 長生きの春日部に



並木 敏恵
議員

年を重ねることで、さまざまな機能が衰えていくのは自然なことですが、年を重ねても自分らしく生きることができよう「健康寿命」を延ばす取り組みが行われています。個人差はあっても年齢とともに聞こえにくくなり、コミュニケーションが低下し「人と会いたくない」、車や自転車が近づいていても気付かず、「外出が怖い」など、生活の質が下がり、危険も増すことにつながります。

「聞こえ」の改善は補聴器の装着が有効ですが、補聴器使用について基本的な考えを伺います。また、元気で長生きのために補聴器購入の補助を求めます。

○福祉部長

国の研究では、認知症予防と補聴器は一定の相関関係が確認されていますが、難聴と認知症の因果関係は結果が得られていないことから、国の

状況を踏まえ、慎重に判断していきます。

○市長

補聴器購入助成について、多数の署名をいただきニーズが存在することを認識しています。難聴高齢者が補聴器を装着することでコミュニケーションが取りやすくなることを踏まえ、国の調査結果や導入自治体の検証結果を注視していきたいと考えています。

このほか

○看護専門学校建て替え拡充を
○障害者グループホームに市独自の補助を

安心して歩ける歩道整備 計画と一休みできる 場所づくりを



今尾 安徳
議員

国主導での子どもたちの通学路の歩道の安全対策については、本市でも進められてきたものと思います。しかし、高齢者の方、免許返納者の方、病後回復中の方などから、歩道が歩きにくい、ベンチなど一休みできる場所をもっと増やしてほしいなどの要望を

ただく機会も増えました。

本市は坂があまりなく、非常に歩きやすい地域だと思います。安心して高齢者の方も出歩ける歩道整備を、市民の方と一緒に歩いて計画を作っていく、また、民間の協力も得ながらベンチの設置など、一休みできる場所づくりを進めていくことは、一つの本市の大きなアピール・魅力になると思います。そこで市長の見解を伺います。

○市長

市内を安心して歩くために歩道整備を効果的に進めることは大変重要であると認識しており、市長就任以来、2年間で駅周辺のバリアフリー化、ベンチ設置などを推進してきたところです。

議員提案の民間からのベンチなどの協力、寄贈については、積極的に進めていきたいと考えています。今後についても、安全安心で快適な道路環境づくりに向けて、市民の皆さまの意見を伺いながら、バリアフリー化と併せて高齢者の方なども安心して歩ける歩道整備を推進していきます。

このほか

○困った人に寄り添える生活保護行政を

市立医療センターの 充実について



金子 進
議員

市立医療センターについては、外来・入院が盛況で、医療、設備ともに充実し、市民から頼られる病院として高度な医療を提供しています。先日入院された方から、入院中はスマートフォンを利用しての方が多くいるが、Wi-Fi環境が整備されれば、さらに良くなるのにとの意見がありました。患者サービスの向上のために、Wi-Fi環境の整備ができないか伺います。

また、平成28年に最新の医療機器を導入して新病院となり7年経過しましたが、今後の更新計画について伺います。

○病院事務部長

Wi-Fi環境の整備については、課金カード式のサービスが可能な設置運営契約方式を導入している医療機関もあり、環境整備にかかる初期投資や、その後の維持管理費についても設置運営会社の負担で整備が可能です。費用面

でのメリットが大きいことから、この方式による導入も視野に入れながら、検討していきたいと考えています。

医療機器の更新については、更新計画に基づき行う予定で、令和6年度に内視鏡下手術支援ロボットの機種種への更新に併せ、内視鏡手術装置の増設やエコーなどの周産期医療機器の更新を予定しています。令和7年度にはマルチスライスト、マンモグラフィ、X線テレビ装置などの更新を予定しています。

このほか

○農業の状況について

人事管理と 定年延長制度について



吉田 稔
議員

市民の皆さんに寄り添った市民サービスを継続していくために、優秀な人材をしっかりと確保していくことが重要と考えます。

そこで、以下伺います。

①来年度から始まる役職定年制において、役職定年者に求める役割と配属先について

②新規採用者について
③職員を対象とした現場を肌で感じ取れる研修等について

○総務部長

役職定年者に求められる役割については、業務の担当者としての即戦力のほか、特に2つの役割を求めているところです。1つ目は、現場の相談役としての役割です。2つ目は、マネジメント補佐としての役割で、経験の少ない若手管理職などの伴走役を担ってもらうことを期待しているところです。

配属先については、今まで培ってきた知識、経験を生かして、自らの能力を発揮できる部署へ配置し、市民サービスの向上につなげていきます。

新規採用職員については、各年度の採用者数に大きな変動が出ないよう平準化を行い、必要な新規採用職員数の確保に努めているところです。

○市長

今後、職員が視察やフィールドワークといった現場を肌で感じ取れるような研修の仕組みを検討し、行っていくべきです。

このほか

○旧宝珠花小学校の跡地活用事業について

新たに始まった「宿泊型 産後ケア事業」について



古沢 耕作
議員

本市は、昨年10月より、妊産婦の方々、そして、産まれた赤ちゃんの心身のケアを行う、宿泊型の産後ケア事業を開始しました。近隣市では既に取り組んでいる自治体も多々あり、遅ればせながらという感はありませんが、産後ケア事業を導入したことは歓迎し、以下伺います。

①同事業の内容、利用申請手続きなどについて

②現在、受け入れ施設は市立医療センター、助産院母魂（ぼこん）、分娩館医院の3施設のみと伺っています。今後、広く利用希望者の要望に応えるため、さらに施設を増やす必要があります。また、越谷市のように宿泊型だけでなく、通所型、居宅訪問型も実施して、さまざまなニーズに対応できる事業にしていくべきではないでしょうか。

○こども未来部長

①対象者は産後4カ月未満の

母親とその赤ちゃんです。医療機関や助産所に宿泊していただき、母子の授乳相談、育児支援などを通じて、家庭に戻ってから安心して子育てができるサポートをする事業です。子育て包括支援センターで申請を受け付けています。

②市外の医療機関を含め、受け入れ可能な施設の確保に努めていきます。また、通所型、居宅訪問型については、利用者のニーズ調査の結果を踏まえながら検討していきます。

このほか

○おもてなしの心を宿す新庁舎に



母子産後ケア（イメージ）